

「開拓碑」

埼玉県入間市・桂開拓

埼玉県の戦後開拓地の入植状況は、1945（昭和20）年から54年までの10年間で、入植戸数1767戸、離農戸数445戸、差引定着戸数1322戸だった（「開拓三十年」78年発行）。

開拓地は県東部、西部には少なく、中部に多かった。中部地区は、旧・軍用地が集中していたことや、地形的に台地が多かったことから、開拓用地として払い下げられる面積が大きかった。

県南部で東京都と接する入間市は、都心への通勤圏内にある。同市においても、戦後、狭山飛行場跡地や民有地で開拓事業が実施された。49年、当時は入間郡に属していた金子村の西南端地区の民有林70畝が、政府買い上げにより開放され、地元の二・三男及び復員軍人等20戸が入植した。同地区を流れる桂川（現・霞川）にちなんで、桂開拓と命名。同年、桂開拓農協を設立した。

食糧をはじめ、肥料や農機具が不足し、開墾は苦労の連続だった。入植者は鍬による手作業で開墾を行った。51年から53年にかけて、待望の電灯が灯り、ランプ生活から解放された。組合員は毎日、開墾作業に励み、営農は陸稲やスイカ栽培へと進んだ。やがて、茶栽培や畜産も盛んになった。現在、肉用牛肥育などが営まれている。

80年、開拓地に「桂公会堂」が完成。82年、公会堂の敷地内に記念碑を建立し（写真⑤左）、除幕式を挙行了した。

記念碑の碑銘は「開拓碑」で、下側に碑文が浅く刻まれている。中段には、「当時、終戦直後のため、農業経験の未熟に加え、諸物資は不足し、特に農業経験の浅い入植者の生活は極度に困窮に達した。併し、我々は一致協同開拓精神を発揚し、この苦難を乗り越え^{ひたすら}只管開拓事業に邁進した」とある。裏面には、入植者の氏名・出身地が記されている。

桂開拓「開拓碑」

- ①調査日 2022年11月29日
- ②所在 入間市木蓮寺
- ③地区の沿革 地元の二三男及復員軍人並に引揚者等20名が入植
- ④設置年月日 昭和57年4月
- ⑤設置者 入植者
- ⑥碑名 開拓碑
- ⑦碑文(表面) 開拓碑

昭和二十年八月終戦を迎え極度の食糧不足を補うため国は緊急開拓事業実施により金子村の民有地七十余町歩を買収しこの地に金子村より十五名、元狭山村より三名、その他の地区より二名計二十名が入植した。

この二十名は地元の二三男及復員軍人並に引揚者等であった。昭和二十四年農協法の制度により桂開拓農業協同組合を設立した、当時終戦直後のための農業経験の未熟に加え諸物資は不足し特に農業基盤の浅い入植者の生活は極度に困窮に達した併し我々は一致協同開拓精神を発揚しこの苦難を乗り越え只管開拓事業に邁進した。又国の助成により住宅電灯の外営農に必要な物資の供給を得現在の基盤を獲得した。これから先我々は日本農業の先駆者として新農村の建設に邁進し益々当地区の発展を期し各農家の健全と安定を期すると共に子孫の繁栄を祈りこの地の足跡と由来を後世に残すためこの記念碑を献立することにした。

昭和五十七年四月

元埼玉県開拓農業協同組合連合会会長 西寫道助書

- ⑧碑文(裏面) 十八戸の入植者の氏名
- ⑨現在の状況 桂公会堂地内で管理されている。



